

## 2020年度 看護学校関係者評価結果

### I. 2020年度 学校関係者評価諮問委員会

#### 1. 学校関係者評価諮問委員

島根県立大学大学院 看護研究科看護栄養学部教授

看護学校非常勤講師・卒業生

浜田市健康福祉部健康医療政策課課長

浜田医療センター看護部長

#### 2. 学校職員

独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター附属看護学校

学校長

教育主事

学科調整教員

実習調整教員

#### 3. 開催日：令和2年10月21日（水） 時間：10：00～12：00

### II. 評価結果

#### 1. 評価基準

「4」：大いに達成できている （大いに成果が見られる）

「3」：達成できている （成果が見られる）

「2」：あまり達成できていない （あまり成果が見られていない）

「1」：まったく達成できていない（全く成果が見られていない）

#### 2. 結果

##### 1. 主体的な学習習慣を促進する学習環境の充実・整備

評価項目（運営目標）	2020年度 諮問委員評価					2019年度 平均
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 学生が主体的に学習できる授業の工夫（学科・実習・教科外活動）	3	4	3	3	3.3	2.9
2) 学生個々が学び、成長できる体制づくり 縦割り教育 チューター制	3	3	3	3	3.0	2.8
3) 学生が主体的に学習できるよう教材・教具・図書・情報科学室・実習室を整える。	3	3	3	3	3.0	3.0
4) 学科・実習委員会を計画的に運営し、教員全体が組織的・効果的に情報交換できる体制づくり	4	4	3	3	3.5	3.1
5) 各学校評価【自己点検自己評価 学生による評価（カリキュラム・授業・実習・教科外 卒業時の満足度）】の結果を次年度に活かせるよう評価システムを整える。	3	3	3	3	3.0	2.6

## 1) 学生が主体的に学習できる授業の工夫

教員は、多忙な業務の中で研究、研修活動に意欲的で、主体性を育む授業設計について共有し、得た学びを授業改善に取り込むなど、学生の学習意欲向上に向けた活動に意欲的である。看護技術演習で複数の教員が授業や演習に参加するなどの取り組みは、学生のみならず授業を展開している教師の成長につながり大いに評価できる。

日常の中で教員同士がお互いの授業を公開する事により、授業のフィードバックになる機会になると考える。このような機会をつくることは、新人教員の成長にもつながるのではないかとと思われるので今後とも期待したい。

## 2) 学生個々が学び、成長できる体制づくり、縦割り教育、チューター制

限られた教員数の中で、クラス担当教員の役割とは別にチューター制を導入し、手厚い学習支援をしておられる。教員から学び方や学習方法の工夫などの助言を受け、自分に合った学習方法を見つけていくことは心強いと思う。学生評価からも「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け近づきやすい存在である」に高い評価が得られており大いに評価できる。しかし、こうした指導体制も含めて日ごろのかかわり方によっては逆効果になることもあり、気にかける、見守ることも大事なかかわりであると思う。

国家試験に向けたチューター制の成果は得られているようであるが、学習初期からの支援、特に難解な学習内容に対して一歩乗り越えられるような支援や、臨地実習の学習に対する支援、メンタルな部分のサポートなどについて今後の課題として視野に入れておられるようなのでその取り組みと成果を期待したい。

1年生・3年生の合同学習（縦割り教育）については、学生の主体的な学習を促進する環境づくり、仕掛けとなっており大いに評価できる。1年生は教員とは別に先輩から教わることでリラックスと良い緊張感が伴い、それが学習意欲を促進させる。さらに3年生は「教える」という行為が自己の学習を深め定着することにつながり、双方の学習効果を高めることに寄与している。（「ラーニングピラミッド」の理論を実践に活用している。）

## 3) 学生が主体的に学習できるよう教材・教具・情報科学室・実習室を整える。

図書室、教材の整理のための教務助手を1名人員確保されている。さらに学生自治会の図書委員会と連携しながら今後の図書の活用促進の成果を期待したい。

文献検索について、学生も教員も利用しやすいように医学中央雑誌文献検索システムを導入されるなど常に前に向かって進んでおられるのが評価できる。

## 4) 学科・実習委員会を計画的に運営し、教員全体が組織的・効果的に情報交換できる体制づくり

学科委員会・実習委員会を組織し、システム化され内容も充実し運営されていることは評価したい。ただ、限られた教員数、勤務時間の中、教員の業務負担にもなりかねないのではないかと危惧される。これまでの委員会の実績があるからこそ今後に向けた取り組み内容を今一度精選されることが望まれる。

実習指導者会議では、定例の会議に加えて学生の臨地実習学習のまとめの会に指導者が参加されるシステムをとられているのは評価できる取り組みである。指導者からの臨床の場を超えた場でのアドバイスは学生の学習を増幅させるし、指導者の学習意欲（看護観、学生観、指導観の膨らみ）や指導のやりがいにつながる良い取り組みだと考える。

## 5) 各学校評価の結果を次年度に活かせるよう評価システムを整える

各種評価（自己点検自己評価、学生によるカリキュラム・授業・実習・教科外・卒業時の満足度評価）を丁寧に実施し、分析し会議等で当該者へフィードバックされており、PDCAサイクルが回されていることは評価できる。

クラス運営の資料を拝見すると、クラスの教育目標に対して丁寧な評価分析がなされている。ポートフォリオの活用や学生の社会人基礎力の自己評価なども取り入れておられるので今後の成果が期待できる。

## 2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成

評価項目 (運営目標)	2020年度 諮問委員評価					2019年度 平均
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 浜田医療センターをはじめとする地域の医療・看護に興味関心が持てるよう、地域に密着した教育の充実	4	4	4	4	4.0	3.5
2) 看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質向上をはかる。	4	4	4	3	3.8	3.1
3) 1年次から一貫した国家試験対策の計画的な実施	3	3	3	3	3.0	3.0
4) 浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する。NHO（母体病院含）目標：70%以上 県内目標：80%以上	3	4	3	3	3.3	3.1

### 1) 浜田医療センターをはじめとする地域医療・看護に興味関心が持てるよう、地域に密着した教育の充実

「看護を語ろう会」（卒業生のケーススタディや実習施設の看護師の看護観の発表）の企画実践は、看護を学ぶ途上の学生にとっては、国立病院機構や浜田医療センターへの愛着を促進する機会になっており就職にもつながっている。また、臨床看護師の学びにもなり良い取り組みである。

「地域医療を考える会」を学校祭で学生自治会とともに企画し、地域の保健・医療・福祉分野の職員との交流する機会をもったことは、学生の地域への理解や関心を高めるよい機会となっており、魅力的な取り組みである。

「地域のシルバーセンター」の方々の協力を得て看護技術演習を実践されていることも地域と密着した教育につながっている。

教科内・教科外の活動で様々な機会を与えることにより、学生の視野の広がりとなっている。今後は、学生の主体性の部分をどのように棲み分けていくか調整が必要である。

### 2) 看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質の向上をはかる。

臨地実習はカリキュラムの約三分の一の単位を占め、さらに看護を学ぶ上での重要な位置にあるものである。

実習の学びの成果を発表する機会など、浜田医療センターの看護部や、他施設の実習指導者と実習以外でも交流する機会があり、よい仕組みがつくられている。学生の成長と指導の成果を知る機会になり、学生、指導者ともに反応も良い。教員の授業のスキルを高める工夫と同時に、指導者である看護師の看護実践力と指導スキルを高めることが期待出来るような取り組みを実習指導者会議の中で工夫され、さらに前進されることが期待される。

### 3) 1年次から一貫した国家試験対策の計画的な実施

国家試験の合格率は学校の一つの評価指標にもなる。入学生の学力に個人差のある現状を踏まえ、1年次からの学習習慣が身につくような支援が必要で、チューター制とクラス担任制の両立のさらなる成果を期待している。

### 4) 浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する。

国立病院機構および県内就職率はそれぞれ目標値は維持できており、一定の評価は得られている。

地元地域への就職に関しては、自治体の役割として地域そのものの魅力拡大や、その伝達等が課題である。島根県西部地域の医療を支える看護師を育成するためにも、学生が地域とかかわりを持つ機会を確保されていることは有効であると思う。地域の特色や地域の看護の魅力を生かした教育の継続は望ましい。地元自治体との連携・稼働も模索されたい。

### 3. 学ぶ意欲のある学生の確保

評価項目 (運営目標)	2020年度 諮問委員評価					2019年度 平均
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 効果的な募集活動による学生の確保	3	3	3	3	3.0	2.7
2) ホームページ、広報誌による情報発信の充実	3	4	3	3	3.3	2.8
3) 教員の専門性を活かした地域への貢献	3	3	3	2	2.8	2.8

#### 1) 効果的な募集活動による学生の確保

少子化が進む中、看護を目指す人をいかに獲得するかは看護系大学も含めて大きな課題である。大学指向にある高校生に看護学校の魅力をいかに伝え学生募集をするかはいずれの看護学校も喫緊の課題としている。本校の取り組みは積極的で、特にオープンスクールは参加者から好評である。学校の雰囲気や学生とふれあうことで、ここで学びたいという思いを強くし、入学志望につながっていると思う。さらには近隣学校との差別化を図るための見直しもされている。少人数教育のメリット、社会人入学生の枠を広げるなどの取り組みに向けて進んでおられるので成果を期待したい。

今後はコロナ禍でもあるので、リモート開催の機会も増えることで地域的な広がりや、年齢の広がりも期待できないか。特に浜田市のIUターン事業に進学・就職を組み込むアイデアはよいと思う。行政機関との連携を今後も模索することで、広報活動の広がりも期待できないだろうか。

#### 2) ホームページ、広報誌による情報発信の充実

広報誌「学校便り；ハッピーHAMAKAN ニュース」年4回の発刊とその継続は他校に見られない事業で高く評価できる。浜田医療センターの広報誌（スマイル&ハート）年6回への掲載も然り、地域や保護者への情報発信として大変丁寧にされている。学生自身もその企画に参画することによりさまざまな力が養われるのではないと思われる。

かたや、楽しみにしておられる方もいると思うが、合計年10回の発刊に対する負担や効果はいかがか。入学生に受験に際して参考になったものは何か調査を行うことも必要ではないか。

#### 3) 教員の専門性を活かした地域への貢献

毎年グループ主催の実習指導者講習会へは講師、助言者として教員を派遣されている。国立病院機構グループからも期待されている教師陣がそろっていることは評価できる。さらに地域に向けた取り組みを検討しておられるので期待している。

#### 4. 教員の質の向上と職員がやりがいを持って働けるワークライフバランスの促進

評価項目 (運営目標)	2020年度 諮問委員評価					2019年度 平均
	A	B	C	D	平均	自己評価
1) 看護教育の質向上のために研究活動、自己研鑽がしやすい環境をつくる	3	3	3	3	3.0	2.9
2) 各自のテーマに基づいた研究成果の発表	3	3	3	3	3.0	2.9
3) 業務内容を見える化し業務の効率化をはかり働きやすい環境をつくる	2	3	3	2	2.5	3.0

##### 1) 看護教員の質向上のための研究活動、自己研鑽がしやすい環境を作る

教員の研修・研究活動など、自己研鑽ができる環境づくりに積極的に取り組まれているので評価できる。

限られた人数の中で、学生指導や学校運営を取り組みながらの研修や研究活動は時間的に制限されるものがある。学校業務のさらなる精選をされ、教師が時間内で授業研究、授業準備等に取り組むことが出来るような環境作りを期待したい。

##### 2) 各自のテーマに基づいた研究成果の発表

学生は、教員の名前が看護専門誌や学会に投稿されること、学会発表の姿を見ること誇りに思っている。上記と同様、環境作りが期待される。

##### 3) 業務内容を見える化し業務の効率化をはかり働きやすい環境を作る

「働きやすい環境」作りは教員の「働きがい」にもつながり、やりがいを促進する。

現在、実習指導時間の変更、勤務線表の見直しなどに取り組まれ、超過勤務の縮減につながっていることは評価できる。今後の取り組みも、具体的に提示されているので成果に期待したい。